



最初にお読みください

# CentreCOM® AR570Sリリースノート

この度は、CentreCOM AR570Sをお買いあげいただき誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（613-000451 Rev.B）とコマンドリファレンス（613-000273 Rev.B）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 2.8.1-02

### 2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.5.B-06 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM AR570S コマンドリファレンス 2.8」（Rev.B）をご覧ください。

#### 2.1 RMON 対応

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」

ネットワーク管理機能として、RMON（Remote Network Monitoring）（1,2,3,9 グループ）に対応しました。

#### 2.2 SNMPv2c 対応

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

ネットワーク管理プロトコル SNMP（Simple Network Management Protocol）のバージョン 2c（SNMPv2c）に対応しました。

#### 2.3 PPPoE AC 機能

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

これまで PPPoE のクライアント機能に加えて、AC（Access Concentrator）機能がサポートされました。PPPoE のクライアントとして動作と、PPPoE AC の併用も可能です。設定は、新しく追加された ADD PPP ACSERVICE コマンドで行います。

#### 2.4 OSPF 関連機能の拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御（OSPF）」

OSPF 関連機能を以下のとおり拡張しました。

- 準スタブエリア（NSSA: Not-So-Stubby-Area）を作成できるようになりました。
- OSPF インターフェースのコストを実際のリンク速度に基づいて自動的に計算できるようになりました。
- MD5 ダイジェスト認証に対応しました。
- OSPF に取り込める BGP-4 経路の数を 300 から 4000 に拡大しました。

## 2.5 OSPF：ユニキャストによるメッセージ交換

 [「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

VLAN 上において、OSPF のメッセージ交換をユニキャストで行えるようになりました。設定は、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された NETWORK パラメーターと、ADD OSPF NEIGHBOUR コマンドで行います。

## 2.6 OSPF：パッシブインターフェース

 [「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

OSPF パケットの送受信を行わない特殊なインターフェース（パッシブインターフェース）をサポートしました。

パッシブインターフェースでは OSPF パケットの送受信を行いませんが、同インターフェースに接続されているネットワークの情報は、スタブネットワークとしてルーター LSA に追加されます。

パッシブインターフェースを作成するには、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された PASSIVE パラメーターに ON を指定します。

## 2.7 OSPF：AS 外部経路の集約

 [「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

AS 境界ルーター（ASBR）において、AS 外部経路を集約してから AS 内に通知する機能が追加されました。設定は新しく追加された ADD OSPF SUMMARYADDRESS コマンドで行います。

## 2.8 OSPF：AS 外部経路取り込み時の詳細設定

 [「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 \(OSPF\)」](#)

AS 境界ルーター（ASBR）において、AS 外部経路を取り込むときに、取り込む経路の数に上限を設けたり、メトリック、メトリックタイプ、経路タグなどを任意に設定したりできるようになりました。設定は新しく追加された ADD OSPF REDISTRIBUTE コマンドで行います。

## 2.9 L2TP：LAC 対応

 [「コマンドリファレンス」 / 「L2TP」](#)

L2TP の Access Concentrator (LAC) に対応しました。

## 3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.5.B-06 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。各機能の詳細については、「CentreCOM AR570S コマンドリファレンス 2.8」(Rev.B) をご覧ください。

---

### 3.1 IP フィルター設定の拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP フィルター」

これまでの IP フィルターの仕様では、IP フィルターの種類ごとに使用可能な ID の範囲が固定になっていましたが、任意の番号の ID に対して、IP フィルターの種類を設定できるようになりました。

設定は、ADD IP FILTER コマンドに追加された TYPE パラメーターで行います。

---

### 3.2 IPsec : Invalid SPI 対応

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

ルーターが、自身の知らない (SA を持っていない) SPI 値を持つ ESP パケットを受信した場合に、フェーズ 1 から ISAKMP ネゴシエーションを開始し、新たな SA を作成するように仕様を変更しました。また、その際、INITIAL CONTACT message を送信するようにしました。

---

### 3.3 ISAKMP リトライインターバル拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

これまでの ISAKMP ネゴシエーション時における再送処理は、最初のパケットに対するタイムアウトを設定すると、その値を基準に再送間隔が徐々に長くなるような動作仕様でしたが、その再送間隔を一定間隔に変更できるように仕様を変更しました。

設定は、CREATE/SET ISAKMP POLICY コマンドに追加された MSGBACKOFF パラメーターで行います。

また、MSGTIMEOUT および MSGRETRYLIMIT パラメーターのデフォルト値も変更されました。

---

### 3.4 IPsec : フェーズ 1 リトライ拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

ISAKMP フェーズ 1 / フェーズ 2 のネゴシエーションの際に、パケットロストなどが発生して正常にネゴシエーションが完了しなかった場合、リトライを指定回数行えるように仕様を変更しました。

設定は、CREATE/SET ISAKMP POLICY コマンドに追加された RETRYIKEATTEMPTS パラメーターで行います。

---

## 4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.7.5.B-06 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 本製品が、内部のシステムチェック処理によりリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 出力先に非同期ポート (ASYN) を指定してログを出力すると、文字化けが発生することがありましたが、これを修正しました。

- 4.3 TELNET コマンド (Telnet クライアント) 使用時、Telnet データに不正な改行コードを付加していましたが、これを修正しました。
- 4.4 SHOW PPP IDLETIMER コマンドの実行時、インターフェース名が表示されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.5 ASBR が AS 外部経路を削除する際に、他の更新事項のない AS 外部経路の更新を行うことがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 DELETE IPV6 INTERFACE コマンドで IPv6 インターフェースを一度削除すると、その後 ADD IPV6 INTERFACE コマンドの入力で再び同じインターフェースを追加できまense ましたが、これを修正しました。
- 4.7 (PIM-DM) Assert が発生する環境において、下流ルーターとして動作している場合、Assert Winner でない上流ルーターに Graft メッセージを送信することがありましたが、これを修正しました。
- 4.8 ファイアウォール有効時、PUBLIC ・ PRIVATE インターフェース間で TCP RST パケットのシーケンス番号が変更されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 ファイアウォール使用時、RTSP サーバーからの再送パケットに追加データが付加されていた場合、該当パケットを正しく転送できず、結果的にクライアント側においてストリーミング再生が停止することがありましたが、これを修正しました。
- 4.10 UPnP 使用時に、リモートホストから FIN に対して 3 ウェイハンドシェイクによるセッションの開放が行われているにもかかわらず、本製品上では TCP のセッションが保持され続ける現象を修正しました。
- 4.11 UPnP モジュールを使用している場合、M-search パケットを受信することによって、メモリーリークが発生する可能性がありましたが、これを修正しました。
- 4.12 VRRP を使用した場合、WAN インターフェースから送信される Advertizing message に 802.1q のタグが付加される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.13 QoS およびルール NAT (ADD FIREWALL POLICY RULE コマンド) の併用時、ルール NAT の対象パケットに対して、QoS のトラフィッククラスが正しく適用されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.14 L2TP、PPPoE、ブリッジを併用した場合、本製品あての通信ができませんでした。これを修正しました。
- 4.15 Main、Aggressive、Quick などのメッセージ交換モードにおいて、最終パケット送信後にそれ以前のパケットの再送を受けるとリポートすることがありましたが、これを修正しました。

- 4.16 CREATE ISAKMP POLICY コマンドにおいて、POLICY パラメーターに 24 文字のポリシー名を設定することができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.17 CREATE/SET IPSEC SASPECIFICATION コマンドの INSPI/OUTSPI パラメーターにおいて、指定できる SPI 値は 65535 までに制限されていましたが、最大値 (4294967295) まで指定できるよう修正しました。
- 4.18 ISAKMP SA がハードリミット満了前の 2 つある状態で、片側の ISAKMP SA より送信されたハートビートパケットのみが 3 回連続到達しない場合、片側ルーターのみ IPsec SA が削除され、通信が行えない場合がありますでしたが、これを修正しました。

## 5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

---

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM AR570S コマンドリファレンス 2.8 (Rev.B)」の補足事項です。

### 5.1 WAN ロードバランス機能 (サポート予定)

 **「取扱説明書」17,18,144 ページ**

本製品では、AT-FL-15 (フィーチャーライセンス：別売) を利用した WAN ロードバランス機能は現在未サポート (サポート予定) です。